

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行NO. 1991	
日時 2022年05月19日(土)晴	
山域 飛騨・乗鞍岳(3026m)	
コース 位ヶ原山荘発9:20一位ヶ原一肩の小屋下10:28一肩の小屋一朝日岳一乗鞍岳12:29一山頂・朝日岳コル一滑降12:49一肩の小屋下一位ヶ原一位ヶ原山荘13:48一バス一観光センター	
標高差 上り 位ヶ原山荘約2350m~乗鞍岳3026m=約676m	
藪漕度 なし	
難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
久しぶりの乗鞍で滑降	
参加者 後藤(単独)	

5月に入ったが好天が続かない。雨が多かった。5月って、こんなに雨が多かった？それでも中旬になり、漸く好天が訪れた。コロナもマアマアになった。気分は、何処かに行きたかった。

先日の富士山でスキーは終わったと思ったが、「もう一度」と欲が出た。それと、「信州割り」が月末まで続く。W(ワイフ)とも、暫く旅行に行っていない。では、「行こう」と信州に向かった。



ピラタス・ロープウェイ



蓼科山(2531m)

初日は、時間がないので、北八ッ・坪庭。天気は良かった。寒くもない。坪庭は、「溶岩台地」。奇妙な溶岩が、ニョキニョキ存在する。

ここは3月29日も訪れた。当時、雪はマアマアだったが、現在は雪はない、花もない端境期。坪庭周回は、1時間も掛からない。ただ、歩けない方には、手ごろかも知れない。そんな所でも、何処かの方は、「膝が悪い」と途中で休んでいた。健康は有難い。そんなこんなで下山。乗鞍岳に向かった。

二日目は、乗鞍岳山岳スキー。朝の露天風呂から仰ぐ空は、真っ青だった。宿の「白濁」した温泉は素晴らしい。乗鞍は昨年5月連休に滑った。連休の雪はサイコーだった。Wは、別行動で上高地散策に向かう。

今回、乗鞍観光センターから位ヶ原山荘までバス始発は8:30。宿の朝食は、6:30にしてくれた。この辺は、「一流の宿」は難しい。一泊二食・11000-の多くの登山者が利用する宿だから可能だったかも。昨今、ともすると、朝食が「弁当」の宿が多い。登山で食っている宿が、それではマズイ。宿は連泊で22000-。その内、10000-が長野割引になる。



位ヶ原山荘



最初の壁

バスは2台出た。この日の登山者・スキーヤーは、100人弱。標高約2350mの位ヶ原までバスで運ばれる。連休は三本滝から上る。三本滝は、標高約1800mだから、550mも違う。歩きで言えば、2Hの違い。

2021年5月記録 <http://susono-reihou.babyblue.jp/000-62.pdf>

今年の雪量はまあまあ。例年通り。問題は雪質だ。2018年5月26日は、雨溝が酷く、下部スキーは最悪だった。

2018年記録 <http://susono-reihou.babyblue.jp/957.pdf>

バスを降りて、ゾロゾロ山に向かう。久しぶりの単独は、「何か忘れ物」をしたような感じだった。やっぱり、山は賑やかな方が良い。山荘から車道を5～6分で山に入る。最初からシールで行く。すぐ壁が始まる。体が慣れず厳しい。



位ヶ原下



除雪ブル

壁を上ると左手で「ゴーゴー・ブルブル」の音が聞こえた。位ヶ原の車道除雪のブルだった。積雪は、まだ3mくらいあった。夏山開山も近い感じ。

位ヶ原から肩の小屋下は近かった。ここから上るコースは、肩の小屋経由の夏道と朝日

岳に上がる沢コースに分かれる。後者は急で厳しい。肩の小屋付近から、夏道に沿って上った。一部、雪が切れたていたが楽だった。多くの方は沢コースを上っていた。



肩の小屋下



正面が朝日岳



朝日岳の沢

朝日岳に到着。少し下り山頂とのコル着。山頂は眼前だ。しかい、山頂に行かないで、朝日岳から滑る方もいた。

滑降ラインは、こちらのがスッキリしている。山頂下からは、一旦滑って車道を肩の小屋下まで歩かなければならないからだ。



コルから山頂



山頂



上って来る登山者

コル上から滑降するのでスキーは置いて行く。シールもコンパスの辺で水分を切って干していく。この水分を切る方法は、先日、Kが分度器でやっていたが、よく考えたら、コンパスは常に持っているので使ったが、なかなか具合が良かった。

山頂に向かう。雪が切れているので歩く。社が見えて山頂着。風もなく温かい。昼食の方もいた。社はまだ閉まっていたが手を合わせた。

下からゾロゾロ上って来る。本来、ここは一步通行だが、皆さん無視か無知。コルまで下って昼食。上りで前後したアベックも滑るようだ。女性はスプリット・ボードだった。



他パーティーの滑降



最近、スプリットをよく見かける。スプリット・ボードが進化し使いやすくなり、ボーダーが山に上るようになったということか。

滑降準備は終わった。単独なのでミスは出来ない。まずは慎重に下った。宿の方がいていたが、今年は3月の降雪が少なかったそうだ。それ故、雪質が良くないだったが、確かに、先日の富士山の様ではなかった。

最もこれだけ多くのスキーヤーが滑れば、まあ、そんなモノだろう。雪はザラメでなく、ガジガジの氷っぽかった。先ほどのアベックも滑って来た。男性はテレマークでキレイに落ちて行った。ボーダー女子も上手かった。



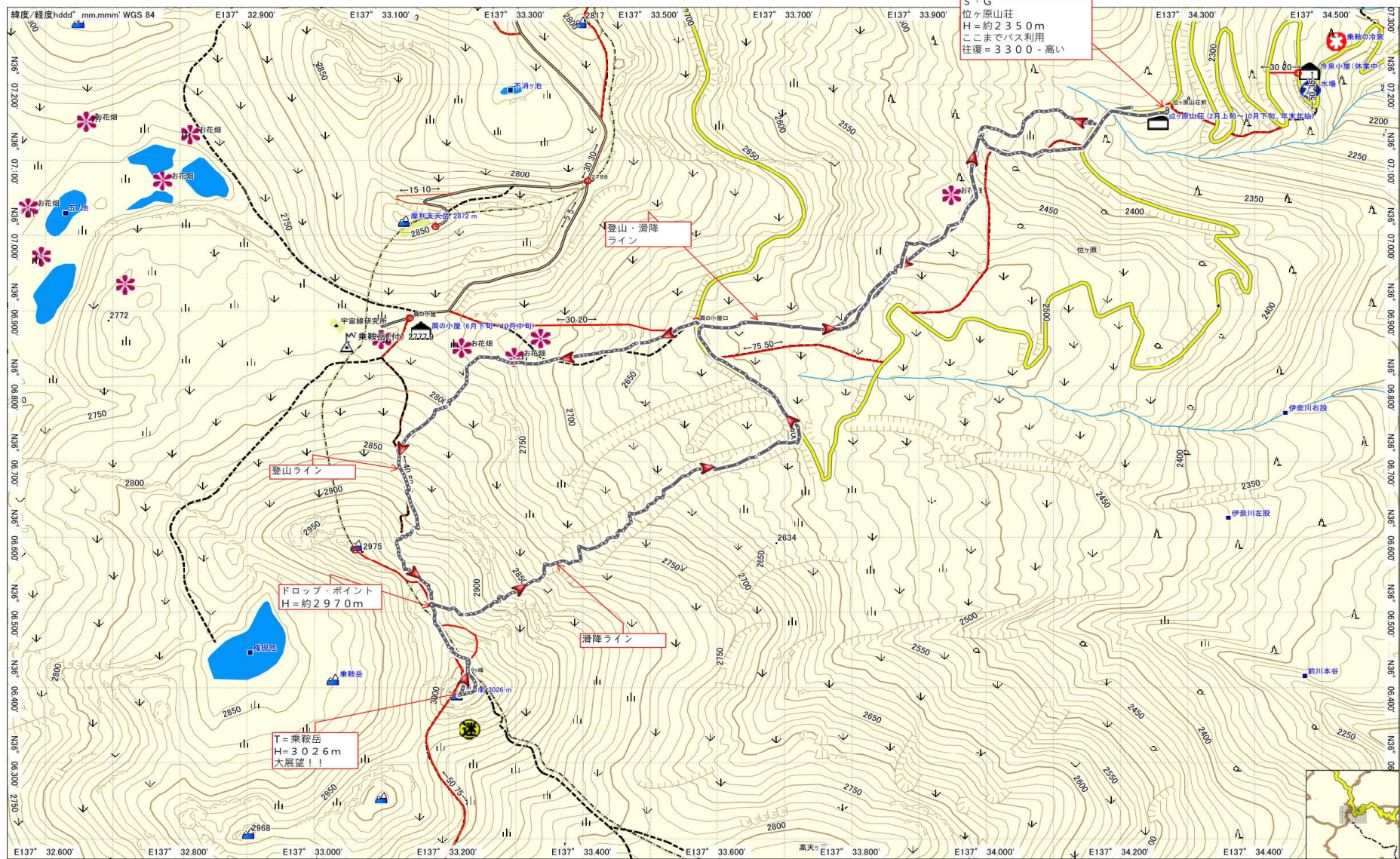
滑った沢（左から二番目・名称はない）



位ヶ原山荘

滑り切って、車道を歩いて再び、位ヶ原を滑った。下部は、ますます雪が悪い。水溝もあるので怪我に注意。

山頂から標高差約676mを約1時間だった。こんなものだろう。バスは14時台がないので毎回1時間半待つ。今回は風が冷たく、ビヤもやらなかった。バスで下山。ゲートでバスガイドが「ゲートの鍵がない」で大騒ぎ。結局、後ろに来た、冷泉小屋の方に借りて開けた。鍵が無かったら2時間位、待たされるところだった。下車時、今度から「首に下げて置いたら」と進言した。（「艸」）



S・G
 位ヶ原山荘
 H=約2350m
 ここまでバス利用
 往復=3300-高い

ドロップ・ポイント
 H=約2970m

T=乗鞍岳
 H=3026m
 大展望!!